



# 容リ協ニュース

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会

The Japan Containers and Packaging Recycling Association



リサイクル探検隊が行く 修善寺大掃除の皆さん



## リサイクルの質の向上に取り組む

市町村のリサイクル推進ご担当者にお集まりいただき、  
分別収集の現状や今後の課題について語り合っていました。

特集	2-7
リサイクルの 質の向上に取り組む	新潟市 横浜市 江東区
3Rの広場	8-9
自社の強みを活かし、 オンリーワンの容器開発へ	大塚製薬株式会社
リサイクル探訪	10-13
再商品化事業者って、 どんな仕事をしているの？	硝和ガラス株式会社
トピックス・協会日誌	14-15
リサイクル探検隊が行く 第22回 大掃除de伊豆おこし!?の巻	16 特定非営利法人 NPO サプライズ

No. 70 2015年11月発行

協会ホームページへは

リサイクル協会

検索

<http://www.jcpra.or.jp/>

本誌「協会ニュース」バックナンバーをご覧いただけます

もご利用ください




## 市町村座談会

### 特集


# リサイクルの 質の向上に取り組む

容器包装リサイクル法は、  
すべての主体がそれぞれの立場でリサイクルの  
役割を担うことを法律の基本理念としています。  
今回の座談会は、中でも分別収集を役割とする  
市町村の方々にお集まりいただき、  
その現状や今後の課題について  
話し合っていました。




環境部廃棄物対策課  
リサイクル推進係 係長  
灰野 知明さん

新潟市




資源循環局  
家庭系対策部業務課  
分別・リサイクル推進担当 課長  
服部 敬久さん

横浜市



NPO法人  
持続可能な社会をつくる  
元気ネット 事務局長  
鬼沢 良子さん



環境清掃部  
清掃リサイクル課 課長  
綾部 吉行さん

江東区

## 分別状況

### 鬼沢

座談会の進行を務めさせていただく「NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット」の鬼沢です。容器包装リサイクル法見直しのための審議会が再開されようとしている今、分別収集を担う皆さまのお話を発信することは大きな意義があると思います。それでは、はじめに皆さんの地域における分別収集の状況についてお聞かせいただけますか。

### 服部

横浜市では、大量消費時代を反映し、以前はほとんどのごみを焼却していました。平成13年のピーク時には、焼却工場全体で年間160万トンのごみを燃やしていたほどです。そこで17年、「横浜G30プラン」を策定してごみの減量化へと本格的に取り組み始めます。本プランでは、5か年計画でごみを30%以上減らすという目標を掲げ、10分別15品目のリサイクルを実施しました。市民の皆さまに多大なご協力をいただき、翌18年に30%削減の目標を達成。プランの最終年となる21年には、42.2%もの削減を実現

できました。

そして、22年にはそれまで培った経験をもとに、新プラン「ヨコハマ3R夢(スリム)プラン」を策定。新プランではごみと資源の総排出量を21年度ベースで10%以上の削減、さらにはごみ処理に伴う温室効果ガスを半分に減らすという新たな目標を設定し、これに取り組んでいる最中です。

### 灰野

新潟市における分別収集は、昭和51年から始まります。プラスチックごみが急増したことを受け、プラスチック類を含む不燃ごみを「分別ごみ」として収集を開始しました。60年からは「普通ごみ」「分別ごみ」「粗大ごみ」「有害ごみ」の4分別で収集し、平成8年度には最終処分場の延命化が喫緊の課題となったことから、「びん・缶」「プラスチック」を資源物と

する6分別の収集に拡大するなど、徐々に分別する数を増やしてきました。

そして20年6月、新潟市では「ごみは有料、資源は無料」のコンセプトをもとに10種13分別による新ごみ減量制度をスタートさせました。この制度開始にあたり、住民説明会、大学への説明会など約2,400回、15万人の市民の皆さまに参加いただき、多大なご理解とご協力をいただいた結果、燃やすごみの量が一気に減少。翌21年度には、19年度と比較して1人1日当たりの家庭系ごみ量が約3割減るなど、大きな成果を実現できました。19年6月に策定した前計画の目標値を前倒しで達成したことから、中間目標年度の23年度に施策の実施内容を総点検し、24年度からの新しい計画を策定する中で、3Rのうち特にごみの発生抑制(リデュース)に力点を置きながら、さらなるごみの減量と資源化を推進しています。

### 綾部

東京23区では、かつてごみの収集事業は都の管轄で、平成12年より各区で担当するようになったという経緯があります。ただ、一部の資源物に関しては以前より各区で回収しており、江東区でも集積所回収、拠点回収、集団回収という大きく3つの方法により、様々な資源物の回収を実施していました。例えば集積所回収では、3年にガラスびんと缶の収集を開始。7年には、区で中間処理施設をつくり、PETボトルの収集もスタートしています。

現在、江東区では9分別を実施し、週6日にわたり、必ず何らかのごみを収集している状況です。東京都の試算では、23区の最終処分場はこの先50年ぐらいが限度とされています。そのため、横浜市さんや新潟市さん同様に、ごみの減量化は私どもにとっても重点課題となっています。プラスチック製容器包装をはじめとする資源物も含め、収集する総量を減らすというのが私たちの基本的な方針で、区民の皆さまにご協力をお願いしているところです。

**ごみはもちろん、資源の排出量も減らしていくことが目標です(服部)**

鬼 沢

皆さんともに、総量を減らすということを一生涯懸命考えてやられているんですね。私たち市民の側は、燃やすごみを減らさなければならぬとは考えているものの、資源になるものも減らすということまではまだ思い至っていないでしょう。そのところが、今後の分別収集において私たち市民が意識を変えていかなければならない点のようですね。

品 質

鬼 沢

市民から排出される分別品の品質状況はいかがですか。

灰 野

新潟市は、新ごみ減量制度をスタートした当初は、プラスチック製の容器包装の収集に際し、そのまま「プラスチック製容器包装」という名称を使っていました。しかし、新潟市では昭和51年からプラスチックごみを収集してきたという経緯があったためか、容器包装以外のプラスチックごみが混入してしまうことが続いてしまい、品質面の課題となってい

ました。そこで、平成25年度より、“プラマークのあるものだけ出してください”という意味を含めて、「プラマーク容器包装」と名称を変更しました。これにより、排出ルールの分かりやすさはだいぶ改善されたのではないかと思います。さらなる品質向上に向けて、資源とごみの情報誌「サイチヨPRESS」(年5回新聞折り込みで配布)で「プラマーク容器包装」などについて広報をしています。

綾 部




江東区では、色分けしたカラーコンテナでびん・缶・PETボトル・発泡トレイ・発泡スチロールを収集しているのですが、箱があるとごみ箱と勘違いされて、通行人がごみを捨てていくということが起こっています。プラスチック製容器包装については、ここ2年ほど容リ協のペール品質検査の成績がふるわず、中間処理施設には品質向上のお願いをしているところです。しかし、施設での取り組みだけでは限界があるのも事実。排出時に汚れを落としてもらうなど、区民の皆さまに一手間かけてもらえるように、

普及啓発の活動をもっとがんばっていかなくてはならないというのが現状です。

容リ協でつくられた品質基準のDVDは、職員への研修や市民説明会にもおすすめです(灰野)

服 部

横浜市では、缶とびん、PETボトルと一緒に混合収集しているため、びんが割れて、

分別収集の実施状況		
 <p><b>新潟市</b></p>	<p><b>10種 13分別</b></p>  <p>サイチヨ</p>	 <p><b>横浜市</b></p>
<p><b>ごみ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 燃やすごみ</li> <li>● 燃やさないごみ</li> <li>● 粗大ごみ</li> </ul> <p><b>資源</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● プラマーク容器包装</li> <li>● ペットボトル</li> <li>● 飲食用・化粧品びん</li> <li>● 飲食用缶</li> <li>● 古紙類 (新聞、雑誌・雑紙、段ボール、紙バック)</li> <li>● 枝葉・草</li> <li>● 特定5品目 (乾電池類、蛍光灯、水銀体温計、ライター、スプレー缶)</li> </ul>	<p><b>ごみ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 燃やすごみ</li> <li>● 燃やさないごみ</li> <li>● 粗大ごみ</li> </ul> <p><b>資源</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● プラスチック製容器包装</li> <li>● 缶、びん、ペットボトル</li> <li>● 古紙 (新聞、段ボール、紙バック、雑誌・その他の紙)</li> <li>● 古布</li> <li>● 小さな金属類</li> <li>● 乾電池</li> <li>● スプレー缶</li> </ul>	 <p>イーオ</p>
 <p><b>江東区</b></p>	<p><b>9分別</b></p>  <p>たすけくん</p>	
		<p><b>ごみ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 燃やすごみ</li> <li>● 燃やさないごみ</li> <li>● 粗大ごみ</li> </ul> <p><b>資源</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 容器包装プラスチック</li> <li>● 古紙類 (新聞、雑誌・雑紙、段ボール)</li> <li>● びん</li> <li>● 缶</li> <li>● ペットボトル</li> <li>● 発泡トレイ・発泡スチロール</li> </ul>

その破片がPETボトルや缶に混ざることがあります。そのため、中間処理施設側に破片を除去する専用の機械を導入してもらうことで対処しています。また、禁忌品については、以前、プラスチック製容器包装に注射針が混入していたことがあり、手選別をしていたスタッフに刺さってしまうという事故が発生しました。市民の皆さまに“人が手で分けているんだ”ということが伝わっていれば、こうした禁忌品が捨てられることもなく、事故は防げたかもしれず、普及啓発に今まで以上に力を注いでいかなければならないと考えています。

**鬼 沢** 禁忌品といえば、9月に容リ協が消費者向けに「プラスチック製容器包装に危険な異物を混ぜないで!」というDVDを制作し、ホームページにも動画を公開しているそうです。そうしたツールを活用するのもひとつの手かもしれませんね。

## 市民啓発

**鬼 沢** 分別品の品質については、皆さんやはり一様に苦勞されているようです。品質を向上するためには市民への普及啓発が欠かせないと思うのですが、皆さんの地域ではどのような取り組みをなされているのでしょうか。

**服 部** 横浜市の場合、学生や単身者など数年で引っ越されてしまう方も多く、一生懸命に普及啓発活動を行ない、成果が出たと思っても、その頃には新しい人に入れ替わってしまうケースが数多く見受けられます。一からまた普及啓発のやり直しということの繰り返しで、分別に対する知識の定着は長年にわたる課題です。そうした課題解決に向けた取り組みとして行なっているのが、市役所内に設置した分別相談コーナーです。毎年3月頃、市役所に転入届を出しにくる方を対象にした本コーナーでは、説明ボードを用いて分別の仕方などを解説しています。さらに、学生や単身者向

けの集合住宅のオーナーさんを毎年訪ね、分別に対するご協力を要請。昨年は190か所を訪問し、94か所で分別状況の改善につなげることができました。

もちろん、広報誌やホームページによる普及啓発も 横浜市 スマートフォン用アプリ 行なっています。ホームページでは、リサイクルされた資源が何になるかといった伝えたい内容のコンテンツをトップページからなるべく浅いところに構成したり、イラストをふんだんに使うなどの工夫をしています。また、分別の仕方を検索できるスマホ用のアプリも若者向けの普及啓発の一環として配信しています。

**灰 野** 横浜市さんのホームページの構成は、伝えたい情報へと見る人を簡単に導けるようになっていて、とても参考になります。初めてこのページを訪問する人にとって、イラストが多くて分かりやすいのもいいですね。

**服 部** ただ、広報誌やホームページといったツールは、分別に対する意識の高い方が必要なときに見るものです。そこで、チラシを定期的に作成して配布したり、町内会の集まりやスーパーなどのお店に自ら出向いて説明するといった啓発活動にも注力し、分別に関心の薄い方にも排出ルールが浸透するようにしています。



横浜市 啓発チラシ



横浜市 スマートフォン用アプリ

綾部

確かに関心の薄い人にメッセージを届けるには、こちらから出向いて説明するといった姿勢が必要ですね。うちも区民まつりといったイベントへの出展は盛んに行なっているのですが、町内会の集まりに出向くことまではここ最近あまりなかったので、今後の検討事項にしたいと思います。

灰野

広報誌やホームページ、スマホ用ごみ分別アプリなどで普及啓発をする一方、新潟市でも一昨年から自ら説明に出向くという姿勢を打ち出しています。環境フェアなどの各種イベントやスーパーの店頭では、「ナジラテ屋（“なじらて”とは、新潟の方言で「いかがですか？」という意味）」と称して、ごみの出し方について分かりやすいように実物を多数展示したり、市民の皆さんが日頃から思っている排出方法などの疑問にお答えするイベントを開催しています。また、ごみや分別に興味を持ってもらえるよう、親子一緒に楽しむことができるゲームなども実施しています。



新潟市「ナジラテ屋」

鬼沢

行政の側から市民のもとへ出向くという発想は、とても良いことだと思います。地域の人と顔見知りになれますし、そうすると協力も得やすくなるはず。やはり、普及啓発には、行政と市民のつながりがとても大切なのかもしれませんね。

どんな啓発活動を実施していますか？

市民啓発講演会	9.2%
自治会・町内会での勉強会	28.5%
焼却場・選別施設などのリサイクル関連施設見学	34.3%
企業製造工程見学	1.9%
その他	26.1%

容リ協・市町村アンケートより

子ども向け啓発

鬼沢

普及啓発といえば、未来を担う子どもたち向けの取り組みも重要です。

服部

横浜市では、焼却工場の見学を市内365の小学校すべてで実施し、燃やして埋めるという工程を学んでもらっています。市内の幼稚園・保育園や小学校に出向く出前授業については、昨年だけで221回実施しました。さらに、副読本の全校配布や啓発ポスターのコンクールを開催、ホームページ内ではごみの分別の仕方をゲーム感覚で学べる学習ツールも運営しています。イベントでの普及啓発も積極的に展開し、オリジナルでつくった収集車のゴーカートは、毎回行列ができるほどの人気を博しています。

こうした子ども向けの普及啓発では、分別うんぬんよりもごみは身近なものだと感じてもらうことが大切です。ごみの問題に興味を持ってもらうことで、そのうち分別に対しても自然に受け入れてもらえるようになるのではと思っています。

綾部

江東区では、区内の小学校4年生を対象に、区の清掃事業に携わる職員が出向いてごみの分別から最終処分場の問題までを分かりやすく説明する出前授業を長年にわたって行なっています。昨年の実績では、区内44校のうちご希望のあった27校で実施しました。授業には、スケルトン仕様に改造した



江東区 スケルトンパッカー車「ごみステ」

古いパッカー車を持参。これを実際に動かすことで分別収集についての興味を喚起するなど、子どもたちに2時間の授業を最後まで飽きずに聴いてもらえるような工夫をしています。

また、子ども向けの普及啓発として、区民まつりや環境フェア、こどもまつりなどのイベントへ出展しています。分別ゲームを工夫したり楽しい企画を毎年用意し、子どもたちが遊びながら分別の知識を学べるようにしています。

## 好奇心あふれる 子どもたちへの普及啓発は、 とてもやりがいがありますね(綾部)

灰野

新潟市も同様に、市内全校の小学4年生に副読本の配布や施設見学、出前授業などを通じて、少しでも子どもたちにごみの分別収集に対する興味を持ってもらおうという普及啓発を行なっています。さらに、保育園・幼稚園向けの啓発DVDも制作しています。これは、ものを大切にしようというリデュースの基本を新潟オリジナルのキャラクター「サイチョ」が教える

というストーリーになっています。ただ、子ども向けの啓発活動は小学生止まりで、その先の中・高校生に対するフォローをどうするかが課題であると考えています。



新潟市 DVD「これってゴミなの？」

## 子ども向けリサイクル啓発活動を実施していますか？

実施している  
65.6%

実施していない  
34.4%

容リ協・市町村アンケートより

服部

私もそれは同感です。横浜市では昨年、中・高校生を対象に23校程度の出前授業を実施しましたが、希望する学校も少なく、フォローがあまりできていないのが現状です。

綾部

江東区の場合は、急増している外国籍の子どもたちに対する普及啓発をどうするかという課題もあります。例えば、インターナショナルスクールでの出前授業が実現すれば、子どもたちを通じてその親御さんたちにも啓発できるはずで、そうしたことができないかと思っています。

鬼沢

普及啓発は成果が見えにくい上、繰り返し行なっていかなければならず、行政だけではどうもやり切れる仕事ではないと思います。皆さんの話の中で、市民とのつながりや店頭での普及啓発という話がありましたが、これからは他の主体との連携をより一層深め、協働していく必要があるのではないのでしょうか。それこそが、リサイクル品の質の向上につながる重要なことではないかと、今日対談を通して感じた次第です。

今日は皆さん、ありがとうございました。



## 自社の強みを活かし、 オンリーワンの容器開発へ

大塚製薬株式会社は、  
医薬品と食品というまったく異なる  
2分野の事業を展開する、他に類を見ない企業です。  
そうした独自性あふれる特色は、  
環境活動にもしっかり反映されています。  
大塚製薬ならではの、  
環境に配慮した容器開発や  
社員を対象とする環境教育への  
取り組みをレポートします。



(左)生産技術部 部長  
北野 康二さん  
(右)生産企画部 課長  
今泉 記代子さん



(左)総務部環境担当 課長  
塚本 裕子さん  
(右)総務部環境担当  
北岡 尚子さん



### PETボトルの軽量化に 医薬品分野の独自の無菌技術を応用

「環境は当社の商品開発における重要なテーマのひとつになっています」と語るのは、生産技術部の北野康二さんです。生産技術部とは、開発段階にある新製品の具現化を請け負う部門。2005年より取り組み始めたポカリスエットのPETボトル軽量化プロジェクトでも、その中心メンバーとして活躍したのが北野さん率いる生産技術部のメンバーでした。

軽量化の研究開発に当たり、北野さんらがなによりこだわったことがあります。それは、大塚製薬ならではの独自性を追求すること。

「機能性飲料というそれまで世の中になかった製品ポカリスエットの開発を筆頭に、他社のものまねをしないというのは当社の伝統になっています。自分たちの強みを活かした、自分たちだからこそできる方法とは何だろうと考えてたどり着いたのが、日本初の技術『陽圧無菌充填方式』でした」(北野さん)

北野さんら開発チームでは、自社の医薬品分野で開発され、注射器の製造現場で使われていた無菌充填技術を「ポカリスエット」のPETボトルに応用。充填するブースを無菌環境にすることで常温のままのポカリスエットを充填し、キャップを締める直前に窒素を充填して内部を陽圧にすることで、容器の厚みをより薄くすることに成功します。肉薄でも開栓前は



ボトル本来の硬さを保つことができ、ひとたびキャップを開くと手になじみ持ちやすい感触が実現しました。

2007年当時、国内製造の500mlPETボトルとしては最軽量のわずか18gを実現。従来容器と比較して1本当たり9g、約30%のリデュースに成功しました。

## 海外生産のための オペレーションも社内で開発

陽圧無菌充填方式による生産を開始した当初から、大塚製薬では自社でプリフォーム(膨らませる前のPETボトルの原型のこと)をPETボトルへと成型するブロー機を導入。一年を通して安定的にPETボトルを成型するためには、季節ごとに現場の温度、湿度を微妙に調整することが必要で、生産を通じてそのノウハウを学んでいきます。2009年には、その経験を活かしてPET樹脂から自社でプリフォーム自体の製造も開始しました。



プリフォーム



さらに同年から、陽圧無菌充填方式による海外生産のためのプロジェクトも始動。現地スタッフの教育など様々な難しさがある中であって、人の経験値や技術に左右されないオペレーティングシステムを開発し、現地スタッフによるラインの立ち上げを実現します。現在、陽圧無菌充填方式による軽量化ボトルの生産ラインは、海外でも問題なく稼働しているといいます。

「陽圧無菌充填方式の研究開発を始めた当初は、業界内にも容器製造の門外漢がそこまでできるのかといった声はありました。しかし、“ものまねはしない”とともに、“失敗してもいいから成功するまでやり遂げる”というのも当社の社風。それがあつたからこそ、PETボトル軽量化も成し遂げることができたと信じています」と、当時、生産技術部で開発チームの一員だった生産企画部の今泉記代子さんは話します。

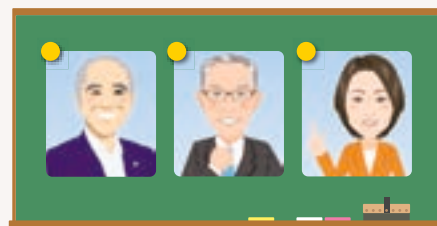
## 環境に特化した教育システムで 社員の意識改革を実現

独自性あふれるのは、容器のリデュースだけではありません。大塚製薬では生産現場同様にISO14001をオフィスにも適用するための一環として、2011年からWebによる「環境の学校」を、全社員約6,000人を対象に開始し、「学校だより」を配信しています。環境のみに特化した教育システムをこれほど大規模に行なう企業は珍しく、まさに独自性にこだわる大塚製薬の面目躍如といったところでしょう。

「その目的は、社会人として当然知っておくべき環境に対する知識を学んでもらうことにあります」と話すのは総務部の塚本裕子さんです。メールによる情報発信とeラーニングによる年度末テストで構成される「環境の学校」はすでに第2期へと突入。第1期では一般的な基礎知識を中心に発信していましたが、2013年よりスタートした第2期では企業の環境活動に着目し、自社も含めた企業の事業活動が、環境保全に対してどのように役立っているのかといった具体的な情報をテーマに据えています。さらに、人事部門の役員にこの「環境の学校」の校長として登場願ひ、会社としての本気度をアピールしたのも社員一人ひとりの意識改革に大きく寄与したのでしょう。総務部の北岡尚子さんによると、教室をスタートした当初こそ反応は薄かったものの、「環境の学校」の回を重ねるごとにアンケートの回答数が増えているとのこと。

「ゆくゆくは環境活動に対する提案や活動が、社員から挙がってくることを目標としています」(北岡さん)

今年、オフィスでのISO14001の環境マネジメントシステムを導入した大塚製薬。「環境の学校」の取り組みは、その活動を末永く継続する力となるはずです。



左から「環境の学校」の渡辺校長、新納先生、ナオちゃん

## 再商品化事業者って、 どんな仕事をしているの？



容器包装リサイクル制度において、  
再商品化事業者が重要な役割を果たしていることは分かっていますが、  
実際にはどんな仕事をしているのか？  
そんな今さら聞けないリサイクルの疑問を徹底解説。  
再商品化事業者にその仕事内容について直接お聞きしました。

説明していただいた再商品化事業者

**硝和ガラス株式会社**

業務部長  
金子 竜也さん

昭和28年にガラス原料問屋として営業開始。  
昭和44年からは、ガラス原料専門商社  
および硝子再資源化処理業者として  
ガラスびんの再商品化を手がける。  
現在は、回収した空きびんから高品質な  
カレットを製造するリサイクル業者として、  
日本有数の事業規模を誇っている。



破碎機



陶磁器選別機



カレット

# 再商品化を実施する!

再商品化事業者にとって最も重要な役割が再商品化の実施です。市町村が収集・選別した分別基準適合物をさらに選別・加工。リサイクル資源として利用事業者へと販売します。



私たちの仕事は、分別された資源ごみを運搬・回収することから始まります

それぞれの家庭から排出された資源ごみは、そのほとんどが市町村の指定保管施設に集められます。そこで分別されたものを自社工場内へと運び込むところから、再商品化業務が始まります。自転車や契約する運搬会社のトラックにて回収。毎日のよう

## 引き取り業務

に運ばれてくる運搬車両のスケジュールも、生産計画に合わせて管理しています。ちなみに、当社では月に1万トン(10トントラックで1,000台分)の使用済みガラスびんを回収しています。

各社それぞれの知恵と工夫で異物を除去し、再商品化製品を製造します

工場内に運び込まれた資源ごみは、まず人の手や機械により選別され、さらに加工処理されて、再商品化製品として生まれ変わります。中でも、異物除去は再商品化事業者の腕の見せどころ。各社がそれぞれに異物除去のための知恵と工夫を施すとともに、設備も充実させることで、純度の高い高

## 選別

品質の再商品化製品をつくりだしています。また、取り除いた異物も丁寧に分別することでリサイクルに回します。当社の場合も、アルミ、鉄、プラスチックなど、ガラスびんの再商品化の過程で除去した異物を分別し、資源として各リサイクル業者へと販売しています。

製造された再商品化製品は、それを使う利用事業者へと販売されます

製造した再商品化製品を利用事業者へと販売して再商品化業務は完結します。つまり、再商品化事業者にとってのお客さまである利用事業者の確保は、容器包装リサイクルを手がけるすべての事業者において重要なミッションのひとつです。使用

## 再商品化製品の販売

済みガラスびんからつくられる再商品化製品であるカレットの場合は、ガラスびんの製造メーカーはもちろん、断熱材や路盤材を製造している業者などが利用業者に当たります。



# 品質向上に取り組む!

再商品化事業者では、自らの取り組みはもちろんのこと、容器包装リサイクル制度の担い手である様々な主体とも連携することで、再商品化製品の品質向上を推進しています。



## 社内での取り組み

### 分別基準適合物の学習

選別スタッフに対し、分別基準適合物の正しい知識を得るための社内学習会を実施しています

高品質な再商品化製品を製造するために、私たち再商品化事業者は市町村より回収した分別基準適合物をさらに選別し、異物などを除去しています。その際、重要となるのが社内の選別スタッフの分別基準適合物に対する正しい知識です。そこで、異物として取り除くべきものをスタッフにしっかりと把握してもらうべく、分別基準適合物の社内学習を実践しています。

## 市民への取り組み

### 工場見学会の実施

リサイクルの現場を見ていただくことで分別することの大切さを発信しています

容器包装ごみの排出時、市民の皆さんにより丁寧な分別を心がけていただくために、再商品化事業者の多くは、リサイクルの現場である工場内に見学専用の通路を設置したり、説明用ビデオを制作するなどして、工場見学会を実施しています。夏休みともなると数多くの親子連れが工場を訪れます。

さらには、業界団体を通じたチラシ制作、環境フェアへの展示協力、エコプロダクツへの出展など、市民への多様な啓発活動を積極的に展開しています。



## 市区町村との取り組み

### 品質に関する協議

市町村との話し合いを通じて、分別基準適合物の品質向上に努めています

市町村より回収した分別基準適合物は、以前は自治体ごとに品質の差がありましたが、近頃は格段に改善されています。しかしながら時には、注意喚起のための連絡を再商品化事業者から行なうこともあります。また、「残渣率が高くて困っている」など、市町村の方から分別に関するご相談を受けることは今でも度々あり、当社の場合も市町村を訪問して話し合う機会を設けています。

## 利用事業者との取り組み

### 品質に関する協議

利用事業者とも連携し、さらなる品質向上を追求しています

お客さまである利用事業者との間でも品質向上に向けた取り組みを展開しています。当社の場合、某びん製造メーカーが年に2回開催する品質会議に参加。そのびん製造メーカーと取引のあるすべてのリサイクル業者が集まり、異物の発生した事例を発表するなど情報の共有化に努めています。

# 次年度に向けた準備も!

再商品化事業者の仕事は、工場内での現場作業だけに限りません。再商品化事業は単年契約のため、次年度の事業に向けて毎年様々な事務手続きを行なう必要があります。



容リ協に対して登録申請の手続きを毎年7月末までに行ないます

## 登録

容リ協の入札に参加するためには、毎年、7月末までに容リ協への登録申請を行なう必要があります。登録には、再商品化製品の利用事業者の証明書



から、工場施設の工程ラインのフロー図、導入機械の仕様、再商品化事業において発生する汚泥などの廃棄処理の証明書まで、数多くの必要書類を揃え、提出しなければなりません。登録審査の可否結果は、11月中旬に容リ協から通知されます。

情報を比較検討し、入札場所や量、単価を決定します

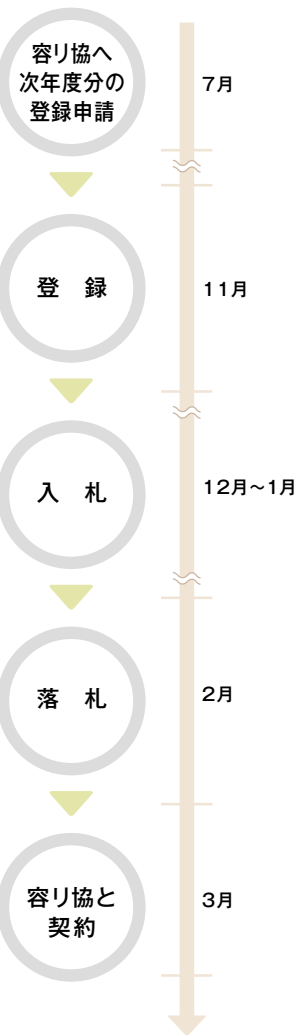
## 入札

容リ協ルートの子入札は、毎年12月下旬～翌年1月下旬までの約1か月間を入札期間として全国一斉で行なわれます。入札前には、対象となる全国市町村の保管施設における容リ協との契約量をくまなくチェック。どの保管施設にどのくらいの量を幾らで入札するかを決定します。入札結果は次年度の事業に大きな影響を及ぼすため、各事業者の担当者にとってはかなりの神経を使う業務です。また、独自処理をしている市町村の中には数か月に1回のペースで入札を行なうところもあり、容リ協ルートの入札時と重なったときなどは、かなりの作業量をこなさなければならないこともあります。

円滑な再商品化事業に向け、事前の準備を着々と進めます

## 落札・容リ協との契約

落札後は、容リ協と再商品化業務委託の契約を締結します。さらに、落札した市町村との回収スケジュールの打ち合わせや、分別基準適合物を市町村の指定保管施設から自社工場へと運搬する手はずなど、4月から始まる事業に向けた準備を整えます。



特定事業者の皆さまへ

## 28年度の 再商品化委託申込みは、 27年12月7日～ 28年2月5日です。

特定事業者(「容器」や「包装」を利用して商品を製造または販売したり、「容器」そのものをつくっている事業者)は、「容器包装リサイクル法(容リ法)」に基づき、容器包装(ガラスびん、PETボトル、紙製容器包装、プラスチック製容器包装)のリサイクル(再商品化)が義務づけられています。容リ協は、主務5省(環境省、経済産業省、財務省、厚生労働省、農林水産省)から指定を受け、特定事業者の「再商品化義務の履行」を代行する機関です。特定事業者の皆さまは容リ協に委託料を支払うことで、義務を果たすことができます。

### 申込担当者必見! 「帳簿作成ガイドライン」 をご活用ください。

特定事業者の皆さまが、再商品化委託申込手続きをより効率的かつ正確に行なうことができるように、手順や注意事項などを解説した「帳簿作成ガイドライン」を制作しました。容リ協ホームページ([トップ](#)▶[特定事業者向け](#)▶[帳簿作成ガイドライン](#))でご覧いただけますので、どうぞご利用ください。



### 委託申込手続きは、 容リ協ホームページの 動画もご参考に!

容リ協ホームページのYouTube容リ協動画チャンネルに、「基本編:容器包装リサイクル制度と事業者の役割」「実務編:再商品化委託申込手続きマニュアル」の2つの動画を掲載しています。基本編は容器包装リサイクル制度や特定事業者の役割、実務編では申込書の記入方法や請求書の見方などについて、それぞれドラマ仕立てで分かりやすく解説していますので、気軽にのぞいてみてください。



### 「容器包装リサイクル 制度説明会・個別相談会」に、 ご参加ください。

容リ協では、27年11月から28年1月にかけて「容器包装リサイクル制度説明会・個別相談会」を全国19か所20回、開催しています。28年度再商品化委託申込み受付業務を行なっている各地の商工会議所と共催で、容器包装リサイクル制度の基礎知識をはじめ、リサイクル義務を果たすための事務手続きなどについて当協会担当者が説明いたします。説明会終了後には、希望される事業者を対象に個別相談会も行なっています。商工会議所・商工会の会員・非会員は問いませんので、ご関係の皆さまには奮ってご参加ください。開催時間、申込み方法など詳細については、容リ協ホームページをご覧ください。



## DVD制作・動画配信

「プラスチック製容器包装に  
危険な異物を混ぜないで！  
～禁忌品混入防止のお願い～」



プラスチック製容器包装への禁忌品混入防止を呼びかけるDVDを制作し、27年9月に全国市区町村へ配布しました。あわせて容リ協ホームページに動画を掲載し、YouTubeでの閲覧もできます。

市民向けの内容で、小学校4年生の男の子を中心に、おとうさん・おかあさん・おじいちゃん・おばあ

ちゃんが、テレビから語りかけてくるお姉さんと会話をしながら、電池、ライター、カミソリ、注射針などの危険な異物について学んでいく構成です。

小学校の環境学習や市民向け説明会などの機会に、どうぞご活用ください。



## 平成28年度向け市町村説明会を開催

平成27年11月6日～13日、市町村・一部事務組合を対象に28年度向け「分別基準適合物の引き渡し」に関する一般廃棄物担当者説明会を開催しました。この説明会は、分別基準適合物の再商品化を円滑に推進することを目的に、全国を5地区に分け、毎年1回実施しているものです。

当日は、引取り品質ガイドラインをはじめとする重要事項について、容リ協から説明しました。



## 協会日誌 (平成27年8月～11月)

## 協会行事

8月28日～10月7日	商工会・商工会議所研修会(全8回)
9月25日	協会創立記念日
29日	情報連絡会議*
10月14日～16日	ガラスびん、プラスチック容器、PETボトル、紙容器事業委員会
20日	総務企画委員会
22日	臨時理事会
23日	平成28年度市町村申込資料送付(申込締切 11月20日)
28日	情報連絡会議*
11月4日	平成28年度最終登録判定会議
6日～13日	市町村説明会(全5回)

\*主務省庁、全国都市清掃会議、協会の3者による情報共有のための定例会議

## ホームページ情報開示

8月4日	平成27年度下期PETボトル落札結果(速報版)
9月7日	平成26年度合理化拠出金告知
24日	消費者向け啓発DVD「禁忌品混入防止のお願い」動画掲載
28日	平成26年度市町村合理化拠出金・一覧表掲載
11月18日	平成28年度登録事業者リスト掲載

## 編集後記

今回は、〈リサイクル探検隊が行く〉の取材で伊豆にお邪魔して、高校生とごみ拾いをしてきました。私自身、小学生以来のごみ拾いであったため非常に懐かしく、また秋空の下、とてもすがすがしい気持ちになりました。NPOサブライズでは、主に人材育成、まちづくりを柱として活動していますが、過去にはごみ拾いと婚活を掛け合わせたイベントも開催しており、このイベントがきっかけで実際にカップルが何組か誕生したようです。

最近では、東京都がハロウィンのイベントに合わせてカボチャのデザインをあしらったごみ袋を配布して、ポイ捨て防止を呼び掛けるなど、各所でもごみ拾いとイベントを組み合わせられた様々な活動が行なわれているようです。今後も、こういったおもしろい活動に注目していきたいものですね。

